

御室八十八箇所巡りの白黒版画

この白黒の木版画は、四国八十八カ寺巡礼のミニチュア版である仁和寺の御室八十八箇所巡りの、1827年に開始された直後に描かれたものです。この版画は、御室八十八箇所巡りを一般の人に宣伝するための一種の広告です。仁和寺の裏手の急坂を2時間で登って行く、成就山と総称されるコンパクトな規模のルートを強調しています。これは、4つの県にまたがる、1200キロの道のりにある八十八箇所の寺院を数ヶ月かけて巡る四国の八十八箇所霊場巡りと比較すると、巡りやすいとわかるでしょう。成就山の道には四国八十八箇所霊場のお寺の砂が入っているため、御室八十八箇所霊場を巡ると、四国八十八箇所のお寺を巡ったのと同様のご利益があるとされています。

民衆の間で四国八十八ヶ所巡りの人気が最高潮に達した江戸時代（1603～1868）、その全行程を歩けない人々のためにミニ巡礼を行うようになりました。仁和寺版は、第29世門跡の済仁法親王（1797～1847）が信徒からの要望を受けて考案したものです。